

## ウクライナで 日本の北方領土返還デモ

川島 順 予科21-7  
(越谷市) 航空7-1

ネットで面白い記事を発見した。それはウクライナ人がウクライナで日本の北方領土返還デモを行った報道である。

1年前のことであるが、2019年（平成31年）2月7日、ウクライナの首都キエフのロシア大使館前で、ウクライナ人が「泥棒国家ロシアよ北方領土を日本に返せ」と旭日旗を掲げて親日デモを行った。このデモは日本では全く報道されなかった。



ウクライナ人の北方領土返還デモ FC2より

写真に記載されているように横断幕には、日本、モルトバ、グルジア、ウクライナの国旗にのちに、日本語で「泥棒国家ロシアよ北方領土を日本に返せ」と大書されている。

### ウクライナ・モルトバ・グルジアの歴史

このデモに参加した三国の歴史を簡単に紹介する。

#### (1) ウクライナ (Ukraine)

1917年ロシア革命によっていくつもの

勢力が独立を宣言したが、互いに勢力を競い合い内戦状態に陥る。

1920年内戦が終結して、ウクライナ社会主義共和国が成立、1922年にロシア、ベラルーシ、ザカフカースと共にソビエト連邦を締結する。

しかし、1922年ソ連の専政に対して強く抵抗したため、ソ連政府は人工的な飢餓状態を起こし、1933年には数百万人ものウクライナ人が餓死した。



ウクライナ・モルトバ・グルジアの地図

第二次大戦中、1941年ウクライナ民族主義者組織(OUN)が独立を宣言したが、ナチスドイツは武力でこれを押さえ込み、ウクライナ人を劣等人種とみなし、数百万人がドイツへ送られ強制労働に従事させられた。ドイツの横暴に対して、1942年ウクライナ蜂起軍(UPA)が結成される。

ドイツ軍がスターリングラードでソ連軍に敗れ敗退すると、ソ連軍がウクライナに侵攻、ソ連軍の暴虐に反対してテロ活動を行ったUPAは壊滅的な打撃を受ける。

第二次大戦後は、ウクライナ社会主義国は旧ポーランド領のハリチナー地方を併合して、大部分のウクライナ人が単一の国家の下に統合された。

1989年「ペレストロイカのための人民運動」が結成され、1990年7月ウクライナの様々な権利をソ連から取り戻す「主権宣言」を行い、12月に実施された国民投票の支持を受けて独立が達成された。

1997年ウクライナ、ジョージア、アゼルバイジャン、モルドヴィアが「民主主義と経済発展のための機構（GUAM）を結成し、ロシアを通さずとも、パイプラインや鉄道をトルコ経由で連通できるようにした。

2009年、ウクライナは独立国家共同体（CIS）から脱退、EUへの加盟を目指している。

2014年2月、クリミア半島で親ロシア派の武装勢力が蜂起、数日で空軍基地、空港を占拠。3月3日からロシアは「ロシア系住民の保護」を理由に軍を投入、3月16日住民投票によってロシア編入が多数決で可決され、クリミアはウクライナから独立し、ロシア編入を宣言した。国連はこの住民投票を無効と宣言しているが、ロシアは現在も実効支配を続けている。

## （2）グルジア(Georgia)：

グルジア(ジョージアとも呼称される)の歴史は侵略、独立、分裂の繰り返しの凄まじいものである。

13世紀から14世紀にかけて、モンゴル帝国の再三の侵略にさらされ、その属国となる。14世紀の中頃独立を勝ち取るも16世紀から18世紀にかけオスマン帝国の侵略を受けその属国となる。19世紀から20世紀にかけては帝政ロシア、ソ連邦の属国となる。1991年ジョージア独立宣言を行いソ連の支配下から脱する。

1992年国連加盟、2009年CISから脱退。現在、EU、NATOへの加盟を目指している。

## （3）モルドバ共和国 (Republica Moldova):

中世期のモルダビア公国以後、トルコ、帝政ロシア、ソ連、ルーマニアによる領土の占領、併合、分離が繰り返された地域である。

1812年ベリサラビアとして帝政ロシアに併合される。第2次大戦時は宗主国はル

ーマニア。

1940年にソ連に占領され、モルダビア・ソビエト社会主義共和国(MSSR)としてソ連の構成国家となるが、ソ連による弾圧、迫害の被害を被る。

ソ連は第2次大戦で中断された1940年のソビエット化政策を積極的に強化した。1944年～45年、赤軍の食料徴収による人工的な飢餓状態により、人口の1割に相当する30万人が飢餓により死亡する。その結果、反ソビエット運動が活発化された。ソ連政府は1949年、約4万人、1万世帯の家族を国外追放する。

1991年8月、ソ連邦から独立、1991年8月モルドバ共和国の独立宣言、同年12月ソ連が解体され、晴れて独立国家となり、CISに加盟する。

1991-1996は親ルーマニア的外交政策をとったが、1996-2001にはロシアにも配慮した中立的スタンスに変わった。

モルドバは軍事的に中立国のままEU加盟を目指しているが、一部の農民が対ロシアとの関係改善を望み反対している。

## デモに参加した人々の主張

以上のようにウクライナ、グルジア、モルドバ三国は、いずれも長年に亘ってロシアの横暴に苦しめられてきた。

デモに参加した人々の主張は次の三点に要約される。

（1）現在、ロシアに対して領土の返還を求めている国は、ウクライナと日本だけです。ウクライナはロシアにクリミア自治共和国を占領され、日本はロシアに北方領土を占領されている。このことが、ウクライナと日本を自然に結びつけている。ウクライナ人はクリル島（千島列島）全部が日本固有の領土であるとまで主張している。

（2）日本は積極的にウクライナを支援してくれている。日本はウクライナの再生に

18億ドルを支援してくれ、経済的に、政治的に、包括的な協力をしてきている。

(3) 日本は現在力強い国家の復活を目指している。ユーラシア大陸の東側に位置する日本と、西側に位置する私たちは、共にロシアとの領土問題を抱えている。そして、軍隊を再興するという目的も共通している。ウクライナは再び核兵器を保有し、日本も核の力を持つべきである。

### 世界世論の喚起に一役

北方領土返還問題については、秩父146号（令和2年1月）で筆者の私見を述べたが、その中で、世界世論を味方に付けることが重要であると指摘した。ウクライナ人のこのような行動はまさに世界世論の喚起に大きな役割を持っている。このチャンネルを有効に生かす方法を考えるべきである。

また、2015年4月4日の北海道新聞では北方領土の国後島在住のウクライナ人が集会を開いたことを次のように報じている。『北方領土・国後島の中心地、古釜布（ユジノクリーリスク）で3月17日、ウクライナ支援集会が開かれた。北方領土はウクライナ出身者が特に多く「3人に1人（国後島民）とも言われ、出身者を含む約500人が集まり「故郷を支えよう」などの声明を採択し、ウクライナ東部やクリミア半島のロシア語系住民との連帯を表明した。参加した出身者の一人は「故国の混乱が早く収まってほしい」と話した。』

北方領土にウクライナ人が多数住んでいると云うことは、日本と現在の北方領土の住民とを結びつける有力なチャンネルになるものと思われる。是非、彼らとの連携を強める方法を模索してもらいたい。